



NISSIN
Sustainability

人的資本と製品が与える インパクトとウェルビーイングの関係性について

2026年10月2日

日清食品ホールディングス株式会社

経営企画部 齊藤 圭

常に新しい食の文化を創造し続ける

“EARTH FOOD CREATOR(食文化創造集団)”として

環境・社会課題を解決しながら持続的成長を果たす

MISSION

創業者精神

食 足 世 平 食 創 為 世
しょくそくせへい しょくそういせい
 美 健 賢 食 食 為 聖 職
びけんけんしょく しょくいせいしょく



VISION

EARTH FOOD
CREATOR



VALUE

大切な4つの思考



MISSION

食 足 世 平

しょくそくせへい

食が足りてこそ
世の中が平和になる

食は人間の命を支える一番大切なもの。文化も芸術も、すべては食が足りてこそ語れるものであり、食のあり様が乱れると争いが起こります。食が足りて初めて、世の中が平和になるのです。私たちの事業は、人間の根源から出発しています。

美 健 賢 食

びけんけんしょく

美しく健康な身体は
賢い食生活から

空腹を満たし、味覚を満足させるだけではなく、美しい体をつくり健康を維持することも、食品のもつ大切な機能です。美しく健康な体は賢い食生活から。私たちは食の機能性を追求し、賢食を提唱します。

食 創 為 世

しょくそういせい

世の中のために
食を創造する

企業にとって最も大切な創造的精神。創造とは、新しい発想と技術によって革新的な製品を生み出す力です。食を創り、世の為につくす。私たちは世の中に新しい食の文化を創造し、人々に幸せと感動を提供します。

食 為 聖 職

しょくいせいしょく

食の仕事は
聖職である

食は人々の生命の根源を支える仕事です。食の仕事に携わる者は、人々の健康と世界の平和に貢献していかなければなりません。食の仕事は聖職なのです。私たちは安全で美味しくて体にいい食品を世の中に提供していきます。

新しい食の創造に挑戦し続けたNISSINの歩み

1958-1980s

世界初の即席めん発明と、日清食品の創業
新たな食文化を創造し、総合食品グループへ

1958

社会課題から生まれた イノベーション 「チキンラーメン」誕生

創業者・安藤百福は、終戦後の寒い冬の日、闇市で人々がラーメンの屋台に行列を作り、温かいラーメンを幸せそうに食べる光景を見た経験から「家庭で、お湯さえあればすぐに食べられるラーメン」の開発に取り組み、世界初の即席めん「チキンラーメン」を発明し、事業を開始しました。



チキンラーメン開発当時の
研究小屋(再現)

発売当時の
チキンラーメン



銀座の歩行者天国で
試食販売を実施



発売当時の
カップヌードル

1971

手軽さへのニーズに応える 「カップヌードル」誕生

世界初のカップめん「カップヌードル」は、安藤百福が、アメリカへ市場視察に行った際、スーパーの担当者が「チキンラーメン」を小さく割って紙コップに入れ、お湯を注いでフォークで食べたことをヒントに開発されました。高度経済成長期の手軽さへのニーズの高まりと相まって、試食販売を行った銀座の街は、歩きながら「カップヌードル」をすすめる若者であふれました。

1990s-2010s

サステナビリティ経営の推進と
さらなるイノベーション強化に向けて

2008

サステナビリティの推進 ECOカップ誕生

「カップヌードル」の容器素材を紙に切り替え、「For Ecology」「For Customer」「For Originality」という3つの大切な要素の頭文字からECOカップと名付けました。



2014

イノベーションの強化 「the WAVE」設立



「グローバルイノベーション研究センター」と「グローバル食品安全研究所」からなる、技術・開発・研究拠点「the WAVE」を設立。「技術革新」と「食の安全」という、食品メーカーとしてのプロミスを世界に向けて発信しています。

2020s

グローバル化の加速と
EARTH FOOD CREATOR
としての挑戦



2022

「完全メシ」の 販売を開始

33種類の栄養素とおいしさの完全なバランスを追求した「完全メシ」の販売を開始しました。国内ではブランド認知率が50%超に到達、完全メシシリーズ累計7,400万食(2026年7月末)を突破し、「完全メシ」ブランドの定着が進んでいます。

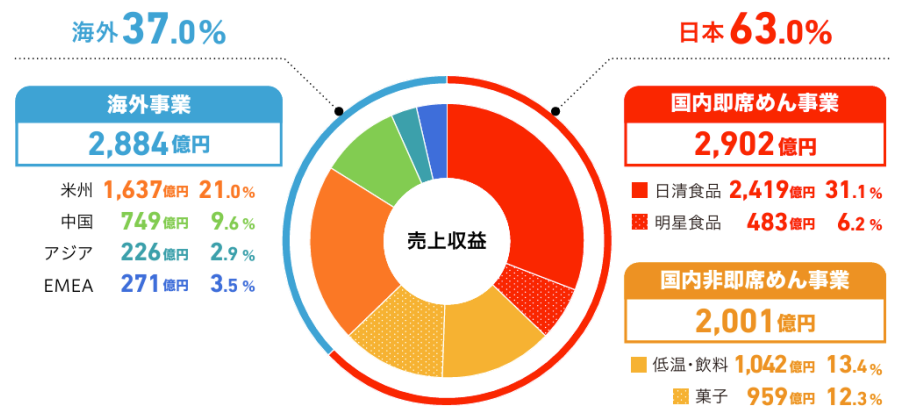
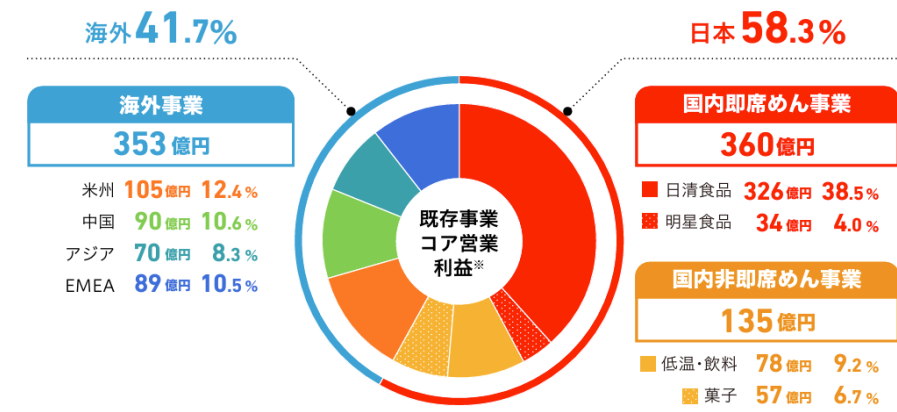
海外比率・非即席めん事業が拡大中

2025年度実績 売上収益 **7,881** 億円

既存事業コア
営業利益 **706** 億円

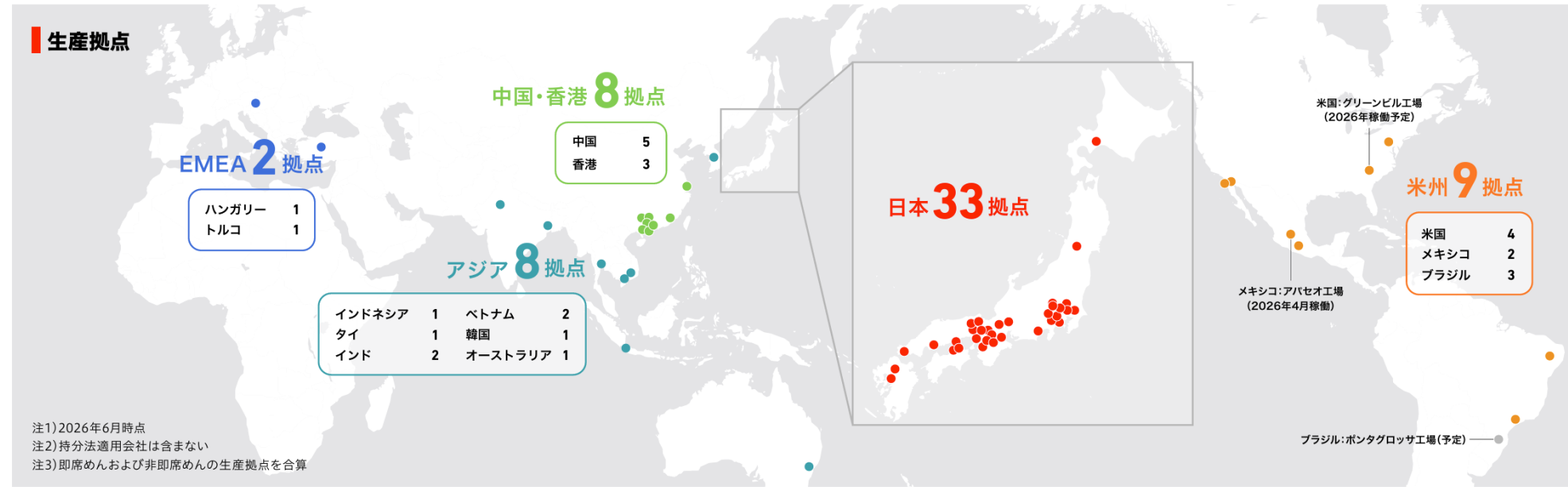
既存事業コア
営業利益率 **9.0** %

セグメント別構成比

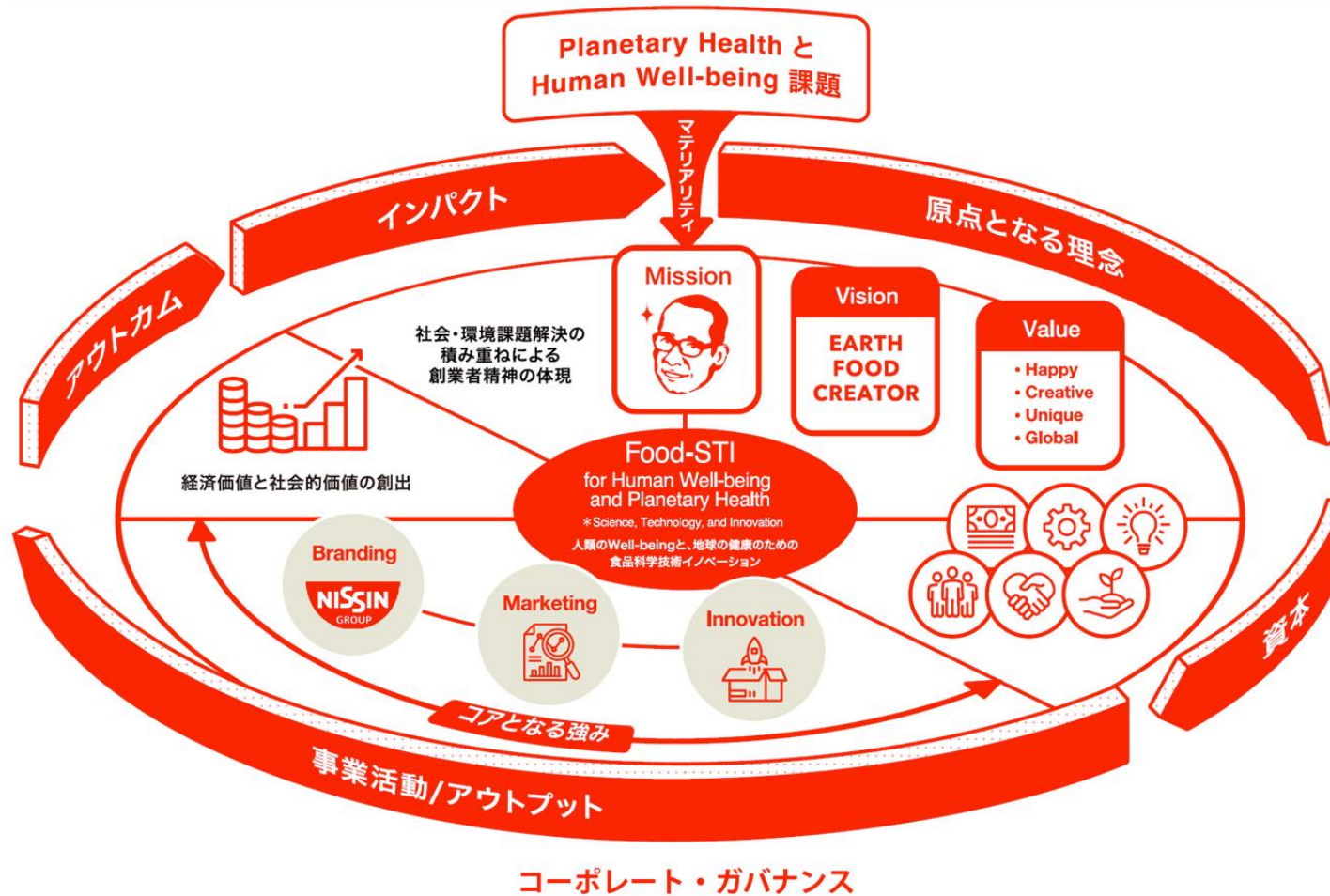


注) 売上収益および既存事業コア営業利益の各比率は「国内即席めん事業」「国内非即席めん事業」「海外事業」の3事業合算で算出

※ 既存事業コア営業利益 = 営業利益 - 非経常損益としての「その他収支」 - 新規事業損益



価値創造プロセス



	健全な財務体質と高い収益性
	グローバルな事業活動を支える製造拠点と高い品質
	技術革新力を支えるR&D拠点と新規事業への投資
	事業を支える食文化創造集団
	優れたマーケティングノウハウに培われたブランド力
	独自の環境戦略による「資源」と「気候変動」への取り組み

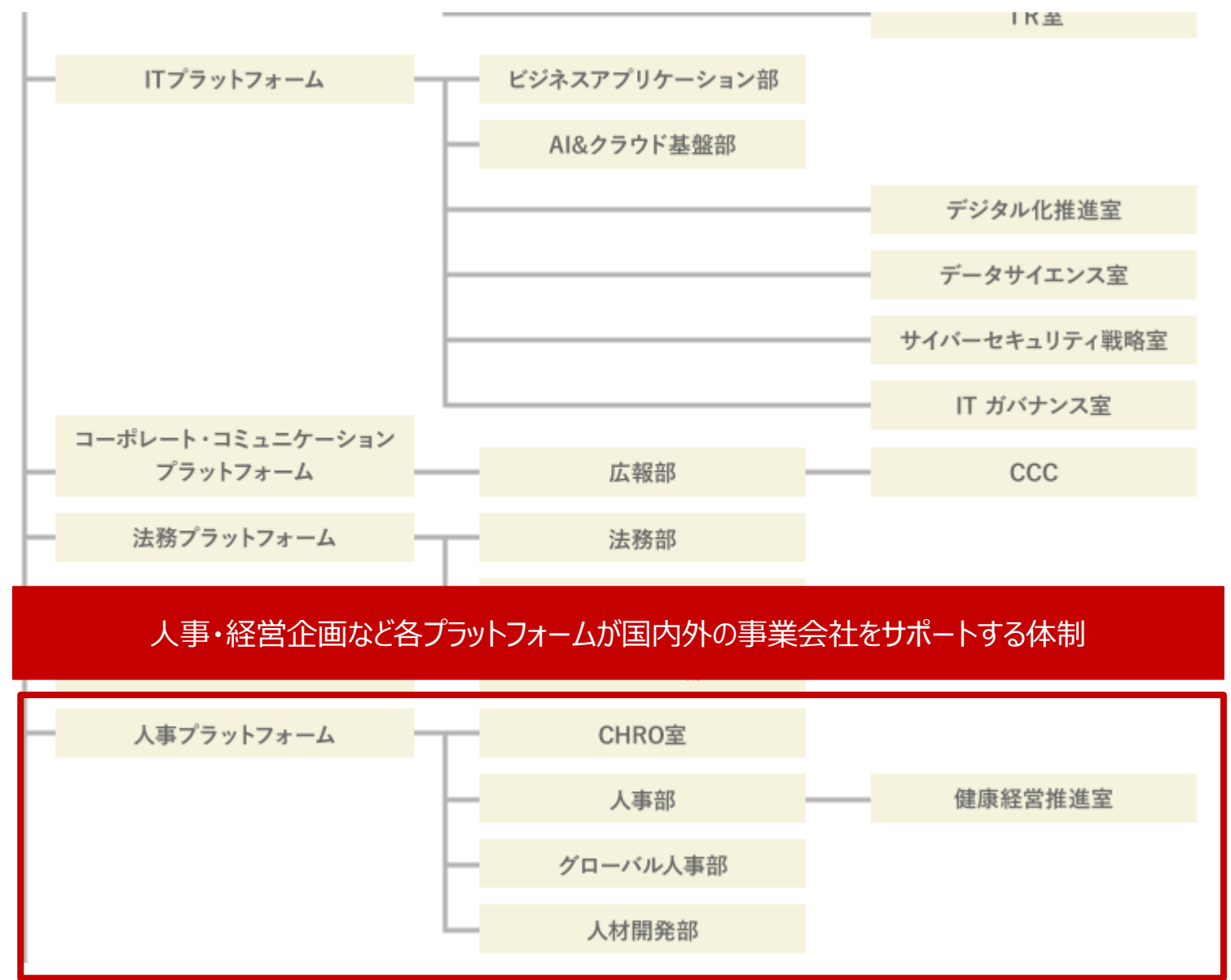
当社グループの事業活動を支えているのが、財務資本と人的資本など非財務資本5つを合わせた6つの資本です。これらの資本を蓄積し、不確実性の高い社会環境の中で適切な配分を見極め、最大限に活用することで、新しい食文化の創出とグループの持続的な成長へとつなげていきます。

NISSINの6つの資本

	財務資本 	社会・関係資本 	知的資本 	人的資本 	製造資本 	自然資本
資本の特徴	健全な財務体質と高い収益性 <p>即席めんのトップメーカーとしての確固たる事業基盤から生み出される利益の蓄積により、強固な財務体質を実現。海外事業をはじめとする成長分野への積極投資を継続し、さらなる収益基盤の拡充を目指す。</p>	優れたマーケティングノウハウに培われたブランド力 <p>ブランドの育成と価値の最大化を図ることで、No.1ブランドの集合体である「Branding Corporation」の実現を目指している。テレビCMと店頭販売のアプローチ、SNSによる共感の拡散といった三位一体のブランドコミュニケーションを駆使し、ターゲット層のマインドシェア※1を高めることでブランドのファンを醸成している。</p>	技術革新力を支えるR&D拠点と新規事業への投資 <p>即席めん分野で培った独自の“おいしさ”の再現技術と食に関わる豊富な知的財産を保有。また、「食の安全・安心」を基盤に、長年培ってきた加工技術を活かした最新フードテクノロジーや生産技術の開発などに取り組んでいる。</p>	事業を支える食文化創造集団 <p>創業者精神を基盤に、人財を企業価値の源泉と位置付け、中期人財戦略を推進。経営体制の整備、グローバルおよび国内の人財基盤強化に取り組むとともに、NISSIN ACADEMYによる育成や自律的キャリア形成、Mission・Vision・Valueの浸透、DE&I・Well-being・健康経営の推進を通じ、多様な社員の働きがいと成長実感を高めている。</p>	グローバルな事業活動を支える製造拠点と高い品質 <p>国内外に製造拠点を展開し、高効率な生産体制と高水準の品質管理を実現。「食の安全・安心」を支えるとともに、旺盛な需要に応えるため積極的な設備投資を継続している。</p>	独自の環境戦略による「資源」と「気候変動」への取り組み <p>世界中の人々の食を支えるグローバルカンパニーとして、より高いレベルでの環境対策推進を重要経営課題と位置付け、中長期成長戦略の一つとして環境戦略「EARTH FOOD CHALLENGE 2030」を策定。地球資源を取り巻く環境の保護および資源の有効活用に挑戦している。</p>
	主な指標 <p>ROE水準 9% →目標 2030年までに10%以上 長期的に15%</p> <p>Net Debt / EBITDA 0.9倍</p> <p>高い外部格付 JCR AA R&I AA-</p>	<p>「カップヌードル」の高い認知度 国内即席めん市場シェアNo.1</p> <p>カップヌードル販売国数 100カ国以上</p> <p>カップヌードル販売食数 23億食/年</p> <p>ローカライゼーション</p>	<p>グループ全体保有特許数 国内618件/ 海外914件</p> <p>研究開発費/売上比率 1.6%</p> <p>新規事業投資 既存コア営業利益の5-10%</p> <p>最適化栄養食を実現する技術</p>	<p>連結従業員数 17,988人</p> <p>海外従業員比率 63.4%</p> <p>女性管理職比率 10%</p> <p>社員のMission・Vision・Value共感度 77%</p>	<p>グループ生産拠点 国内33/海外24※2</p> <p>関西工場不良品発生率 100万分の1以下</p> <p>設備投資額 968億円</p>	<p>取水量(国内外) 8.9m³/売上百万円</p> <p>CO₂排出量 36.7万t-CO₂</p> <p>持続可能なパーム油の調達比率 52.3%</p> <p>取引先へのサステナビリティ調査の実施</p>

※1 ターゲット層の脳内の“興味や関心の占有率” ※2 2025年度末時点

人事組織



社員を対象とした取り組み

直近の人事戦略とKPI

企業戦略と人財戦略との連動



人財戦略上の重点テーマ 主要KPI

経営体制の整備		
2026年度 グローバル主要ポスト※1選定と後継者プール設計	2027年度 指名・報酬諮問委員会によるエグゼクティブ報酬等ガバナンス体制の構築	2028年度 グローバル主要ポスト※1後継者(即時)現行比200%
Global One Nissinの構築		国内事業組織・人財のさらなる強化
2026年度 グローバル共通理念研修海外現法展開率100%	2027年度 日本本社へ海外現法社員受入れ仕組み化・開始	2026年度 人員・人件費適正化に向けた国内グループ要員管理体制強化
2028年度 日本本社の海外要員(CEFR B1+以上)50%※3		2028年度 グローバル主要ポスト※1後継者プール(次期・次々期)現行比200-300%
		2028年度 次世代人財パイプライン※2現行比150%※3
組織力の向上※4		
指標	目標	2025年度実績
社員のキャリア実現度		76%
社員のMVV受入れ共感度	ターゲット目標 85%	77%
社員の働きがい	コミットメント目標 70%	75%
社員の成長実感度		69%
女性管理職比率	2025年度 10% 2030年度 15%	10%
男性育児休業取得率	2030年度 85%	76%

※1 グローバル主要ポスト: 当社グループの持続的成長とグローバルガバナンスを支える観点から重点的に管理する重要ポスト

※2 次世代人財パイプライン: 将来の経営と事業成長を担う人財層の拡充を支える育成基盤

※3 中核企業である当社グループ4社(日清食品ホールディングス㈱、日清食品㈱、日清食品チルド㈱、日清食品冷凍㈱)が対象。その他の指標は当社グループ全事業会社が対象

※4 中核企業である当社グループ4社(日清食品ホールディングス㈱、日清食品㈱、日清食品チルド㈱、日清食品冷凍㈱)が対象

2025年度末
目標達成

具体的な施策事例

Global One Nissinの構築

グローバル人事体制を強化するとともに、各国HRと連携して評価・報酬・育成の共通方針を整え、統一的な人財マネジメント基盤を構築します。同時に、各地域の事業特性や制度に応じた柔軟な人事運営が可能な体制を整え、全体最適と地域最適の両立を目指します。

— Global HR Meeting

拡大する海外事業展開を支えるHR機能拡充に向けた基盤づくりのためGlobal HR Meetingを定期開催しています。これにより、HRネットワークの形成・連携強化や、HR部門としての共通認識と求められる役割の理解、日清食品の成り立ちに触れることによるMission・Vision・Value(MVV)の体現を狙っています。



カップヌードルミュージアムでの理念研修

— Future Leader Session

海外現地法人の次世代リーダー人財を対象に、グローバルビジネスを牽引するリーダーシップの育成を目的とした選抜型の対面研修を実施しました。中長期成長戦略や日清食品グループのビジネスへの理解・共感の深化を図るとともに、実践を通じたMVVの体現を支援し、グローバルビジネスの将来を担う人財を育成しています。



Future Leader Sessionの様子

組織力の向上

多様な個性や専門性を持つ社員が互いを尊重し、MVVに共感しながら、Well-beingと働きがいを感じて活躍できる状態を目指します。どのような事業環境でも、多様な社員がしなやかに連携し、組織力を高められるよう、引き続き、さまざまな取り組みを進めます。

— Mission・Vision・Valueの浸透

経営トップによるメッセージ発信や理念研修に加え、チームで理念を語り合うセッション、創業の原点を体感する「チキンラーメン対面販売」など、多角的な浸透活動を展開しています。さらに、高い創造性を発揮した社員を称える「NISSIN CREATORS AWARD」を毎年開催しています。



チキンラーメン
対面販売

NISSIN CREATORS
AWARD 2025 表彰式

国内事業組織・人財のさらなる強化

国内事業の競争力強化と次世代人財の育成に向け、組織力向上と人財育成機能の強化を進めます。社員の自律的な成長を支援し、採用・育成・配置の質と生産性を高めることで、柔軟で高い成果を生む組織づくりを目指します。

— NISSIN ACADEMYを中心とした人財育成

日清食品グループは、企業内大学「NISSIN ACADEMY」を教育の中核に据えています。その基盤となる「学習プラットフォーム」では、自発的に学べる200以上の講座を展開。また、デジタル変革を加速させる「NISSIN DIGITAL ACADEMY」を通じて、生成AI活用やアプリ開発などのリテラシー向上を推進しています。



NISSIN ACADEMY Learning

— 自律的なキャリア形成の支援

年に一度、自身の希望や将来像を会社に伝えるキャリア申告制度を運用しているほか、部署が求めるポストに自ら手を挙げて挑戦できる公募制度を活性化させています。さらに、公募ポストへの適合度を可視化する「就任要件マッチ度」を設け、個々のスキル・経験に応じた最適なマッチングを実現し、新たな挑戦を後押ししています。

就任要件マッチ度



公募制度で希望するポストとの
マッチ度が把握できる
(管理職のみ)

— ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン

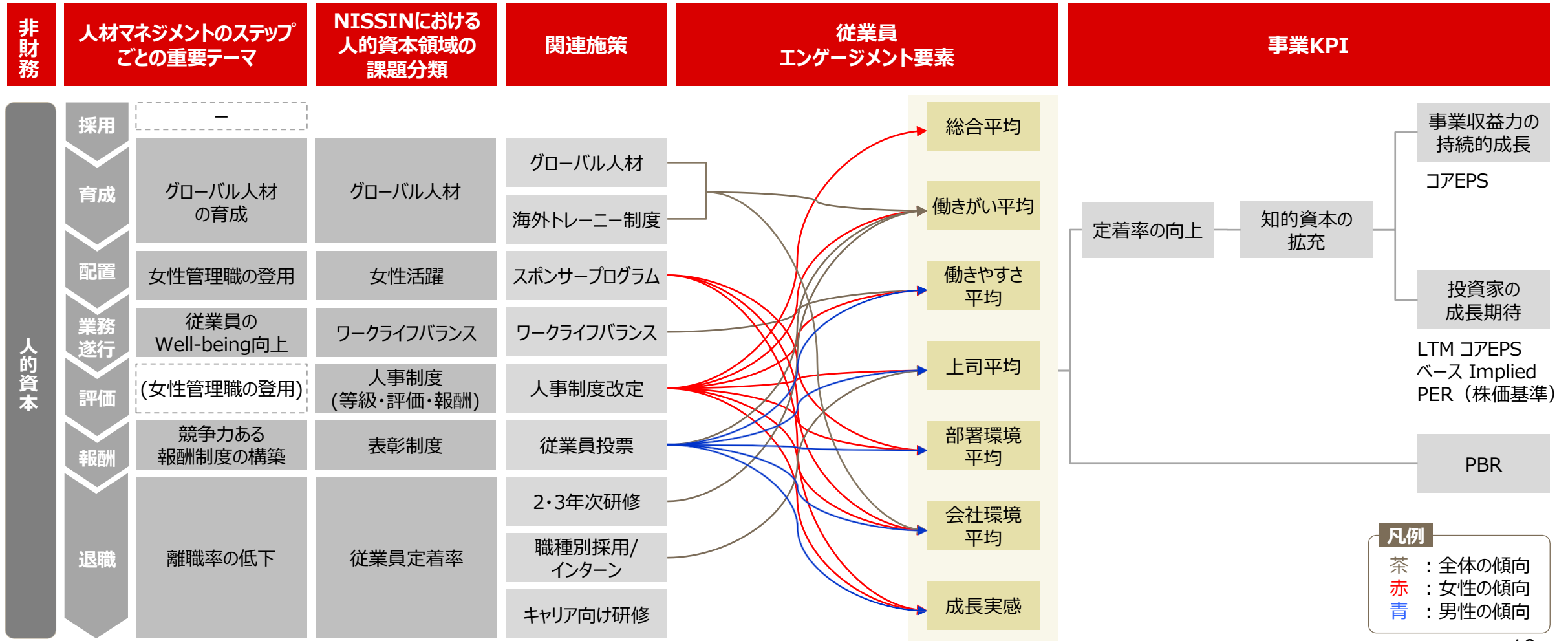
役員や組織長が女性管理職、管理職候補を個別育成支援する「スポンサープログラム」をはじめ、社外取締役・監査役との座談会の開催、女性向けのリーダーシップ開発プログラムを実施しています。また、男性の育児休業取得を促進するために取得事例などを紹介しています。



育休に関する講義

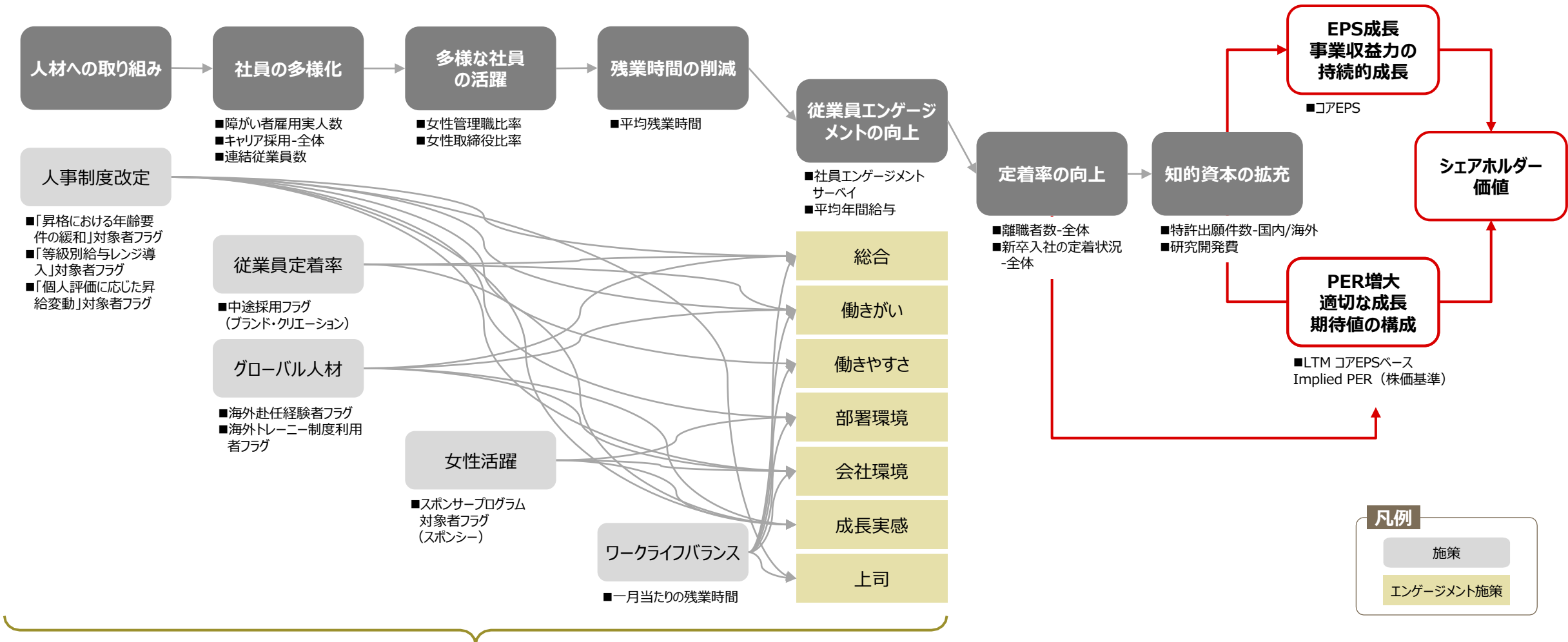
Value Tree Analytics (VTA分析)

人的資本領域に関する課題を、人材マネジメントプロセスに基づき整理し、それらに紐づく施策が性別・職種別にどのようなエンゲージメント要素の向上に繋がっているか、その相関有無を検証。



Value Tree Analytics (VTA分析)

人的資本がアウトプット/アウトカムを創出し企業価値向上につながるまでの流れ（価値関連性分析）を、実際に実施している施策から実証。



いずれか一つの属性において、エンゲージメント向上との関係性が実証された部分

Value Tree Analytics (VTA分析)

VTA結果の一例

人事施策	対象	従業員エンゲージメントとの関係性*1 各施策を利用した従業員は、それ以外の従業員と比較して 従業員エンゲージメントスコアがどれほど高い傾向にあるか	検証結果
<div>女性活躍</div> <div>女性リーダー育成プログラム</div>	女性従業員	<div>自部署はチャレンジを推奨し、能力発揮しやすい環境である ↑</div> <div>この会社で働くことで自分の成長を感じている ↑</div> <div>会社のビジョン・戦略と一緒に実現したい ↑</div>	<ul style="list-style-type: none"> 女性リーダー育成プログラムに参加した女性従業員は、自部署は能力を発揮しやすい環境であり、当社グループで働くことは自己成長に繋がると感じる傾向にあることから、本プログラムは部署環境や会社環境関連のエンゲージメントスコア向上に貢献していると考えられる。 エンゲージメントスコアへの相関の傾向が想定とは異なるものもあったが、本プログラムは開始から間もないため、継続的に検証を行いながら実施方法を随時見直していく。
<div>ワークライフバランス</div> <div>テレワーク制度</div>	全従業員	<div>テレワーク利用日数が多い社員*2の結果</div> <div>自身のワークライフバランスに満足している ↑</div> <div>自部署はお互いを尊重し認め合う風土が醸成されている ↑</div> <div>現業務に対しやりがいを感じている ↑</div>	<ul style="list-style-type: none"> テレワーク利用者の中では、一月当たりのテレワーク制度の利用日数が多いほど、自身のワークライフバランスに満足している傾向にある。 さらに、テレワーク制度を多く利用する従業員は、働きやすさに関するエンゲージメントスコアのみならず、部署環境や働きがい関連のエンゲージメントスコアにも一部良い相関が見られている。フレキシブルな働き方を尊重する風通しのよい部署環境や、ある程度の裁量権を持って働くことに対して、従業員がポジティブな印象を抱いていると考えられる。

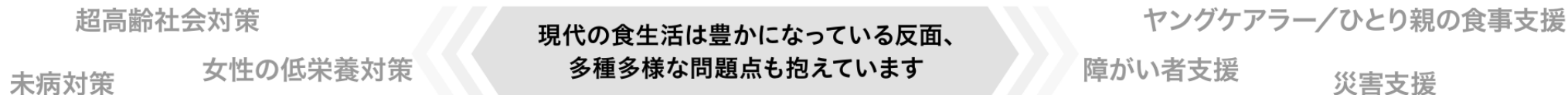
*1 いずれもP値は0～0.05（有意な相関が見られる）、決定係数は0.01～0.045

*2 一か月に10日以上テレワーク制度を利用している従業員

**会社の活動や製品を通して
社外の人々にインパクトを与える取り組み**

社会課題のソリューションとして一日清食品の最適化栄養テクノロジー

食と健康をめぐるさまざまな社会課題



社会課題のソリューションとしての最適化栄養テクノロジー

あらゆる場所で 生活者とのタッチポイントの広がり



最適化栄養 テクノロジー

- ☑ カロリー・塩分・糖質・
脂質を適切に管理
- ☑ たんぱく質・脂質・炭水化物
の理想バランス
- ☑ 33の栄養素をバランス
よく整える

あらゆる場面で オケージョンの広がり



世界中で、最適化栄養食のさらなる普及を目指す

日清食品グループは、最適化栄養食の幅広い普及が世界をもっと健康に、もっとハッピーに変える原動力になると確信しています

完全メシブランドのポテンシャル

国内

国内における「完全メシ」販売は、累計7,400万食（2026年7月末）を突破。認知度も50%超を維持しています。従来のパッケージフードに加え、ドリンク、パン、菓子、ジェラートまでラインナップを拡充し、多様な食シーンへの展開を進めています。



累計**7,400**万食
突破！

ブランド認知率
約**50%超**※1

100億円
ブランド達成！

常温品 全**18**品※2

主食



間食・ドリンク



冷凍品 全**47**品※2

完全DELI+市販品



※1 2025年11月時点 ※2 2026年7月末時点

海外

海外展開も着実に進展中。米国では2025年に冷凍ヌードルを発売し、好調につき全米3,000店へと拡大しています。欧州でもドイツでのテスト販売の成功を受け、展開エリアを拡大。今年度からイギリスでも本格展開を開始しています。



🇺🇸 米国

KANZEN MEAL

冷凍食品

2025年6月 発売開始

2025年度 **3,000**店舗で販売

2026年度 **5,200**店舗で販売



🇩🇪 ドイツ 🇬🇧 イギリス

KANZEN MEAL

カレーメシタイプ

2025年10月 発売開始

2025年度 **400**店舗で販売

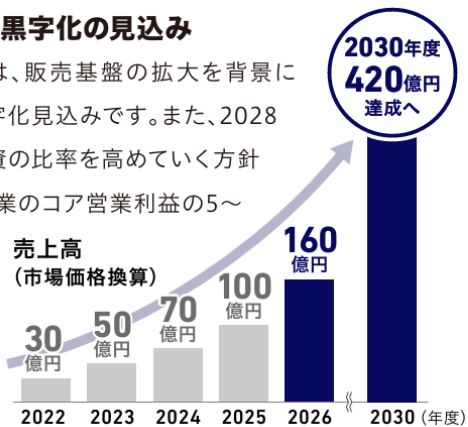
2026年度 **3,100**店舗で販売



各事業における黒字化の見込み

国内事業については、販売基盤の拡大を背景に2028年度以降、黒字化見込みです。また、2028年度以降は海外投資の比率を高めていく方針です。今後も既存事業のコア営業利益の5～

10%の範囲内で売上高（市場価格換算）を維持しながら成長を加速していきます。



国内および海外の各事業における黒字化予想

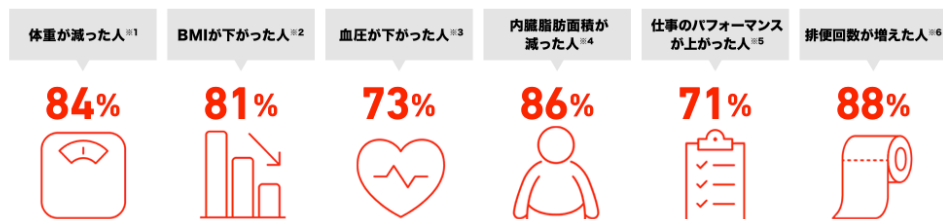
国内事業 営業利益黒字化								
事業年度	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	
市場価格換算売上高	70億円	100億円	160億円				420億円	
BtoC グロサリー					2028年度 黒字化			
BtoC フローゼン					2027年度 黒字化			
BtoB 社食事業					2026年度 黒字化			
BtoB 小売・外食・メーカー協業					2028年度 黒字化			
海外事業						2029年度 黒字化		

注) 上記以外の国内その他事業（および海外事業）を除く。また、研究開発費は含まない

最適化栄養食の基礎研究

バイタルデータの改善で健康な身体づくりに貢献

最適化栄養食の有効性を検証するために実施した臨床試験では、1カ月間に提供された84食のうち40食を最適化栄養食に置き換えた結果、栄養バランスの改善とともに、複数の健康指標において有意な変化が確認されており、健康な身体づくりに貢献する可能性が示されています。



注)右記2種の臨床試験における各評価項目が改善した人の割合を図示 試験① 試験参加者:A社社員110名 試験② 試験参加者:B社社員66名
^{*1} 体重:解析対象者(男性)102名中86名で体重が減少 試験① 摂取前72.4±8.0 摂取後71.5±7.9 p<0.001 試験② 摂取前77.7±9.2 摂取後76.8±9.3 p<0.001 ^{*2} BMI(体格指数):解析対象者(BMI25kg/m²以上の男性)58名中47名でBMIが減少 試験① 摂取前27.5±1.8 摂取後27.2±1.7 p<0.001 試験② 摂取前27.4±2.5 摂取後27.1±2.5 p<0.001 ^{*3} 血圧:解析対象者(収縮期血圧130mmHg以上かつ/または拡張期血圧80mmHg以上)46名中34名で収縮期血圧が低下 試験① 摂取前136.9±9.0 摂取後128.1±9.5 p<0.001 試験② 摂取前134.0±6.7 摂取後130.1±8.7 p=0.024 ^{*4} 内臓脂肪面積:解析対象者(内臓脂肪面積100cm²以上)79名中68名で内臓脂肪面積が減少 試験① 摂取前153.9±30.2 摂取後145.6±29.7 p<0.001 試験② 摂取前148.3±34.8 摂取後129.1±38.7 p<0.001 ^{*5} 仕事のパフォーマンスは、プレゼンティズムのスコアをもとに評価。プレゼンティズムとは、WLQ-J試験の総合パフォーマンススコアに基づき、出勤はしているが労働に支障をきたし0%のパフォーマンスしか出せない状態をスコア0、100%のパフォーマンスを出せる状態をスコア100とし、数値化したもの。解析対象者(総合パフォーマンススコアが94未満)64名中46名でスコアが上昇 試験① 摂取前90.9±2.5 摂取後92.6±3.8 p=0.005 試験② 摂取前90.7±2.6 摂取後93.0±3.5 p=0.004 ^{*6} 排便回数:解析対象者(排便回数週6回以下)27名中24名で排便回数が増加 試験① 摂取前4.2±1.1 摂取後5.6±1.6 p<0.001 試験② 解析対象者が少ないため解析せず
 注)Journal of Functional Foods 2022, 92, 105050にて報告されている研究より作成

ストレス・疲労・睡眠の改善で Well-being向上に寄与

最適化栄養食を1日1食・4週間摂取した臨床試験により、ストレス・疲労・睡眠の改善が確認されました。Well-beingの向上に寄与する可能性が示されています。



注)日本食品科学工学会 第71回大会(2024年8月31日)にて発表

糖尿病・高血圧患者のQOL向上と 食の選択肢の拡大

糖尿病・高血圧患者向けに、満足度の高い減塩・低糖質の最適化栄養食の可能性を検証しており、臨床試験では血糖値・血圧の改善が確認されました。患者の食の選択肢拡大に寄与する可能性が示されています。

注)第69回日本糖尿病学会年次学術集会(2026年)にて発表
 右の写真はイメージで当社製品とは無関係です



抗老化作用で 健康寿命の延伸に期待

慶應義塾大学医学部との共同研究を通じて、最適化栄養食の継続的な摂取が加齢に伴う身体変化に与える影響を検証しました。その結果、DNAのメチル化年齢^{*7}が平均で約2歳若返るという変化が確認され、健康寿命の延伸に資する可能性が示されました。老化は、細胞内の遺伝子がメチル化することで進行するとされますが、栄養バランスの取れた食生活を継続することで、このプロセスを緩やかにする可能性があることが明らかになっています。最適化栄養食は、加齢に伴う課題への新たなアプローチとしての可能性を広げています。

注)日本農芸化学会 2025年度大会(2025年3月8日)にて発表
^{*7} 生物学的年齢(vs暦年齢)。加齢で進行するDNAメチル化の程度を測定。生物学的年齢の指標は、疾患リスクや死亡リスクと関連があるとされている



シニアの身体・認知・ 幸福感の維持と向上

シニアに不足しがちな栄養素を強化した最適化栄養食の摂取により、歩行速度・認知機能・幸福感の改善が確認され、加齢に伴う健康課題への新たなアプローチとして期待されています。

注)Nutrients 2023,15, 4317に掲載



PMS症状の軽減で 女性のQOLの向上に貢献

女性の約95%が経験するとされる月経前症候群(PMS)に対し、最適化栄養食の可能性を検証する臨床試験を実施。葉酸

など不足しがちな栄養素を強化した最適化栄養食を1日2食、12週間168食を摂取していただいた結果、月経前および月経中の身体的・精神的不快感の軽減が確認されました。最適化栄養食の摂取による栄養バランスの調整が、PMS症状の緩和に寄与する可能性が示されました。

注)BMC Womens Health 2026, 26, 178に掲載



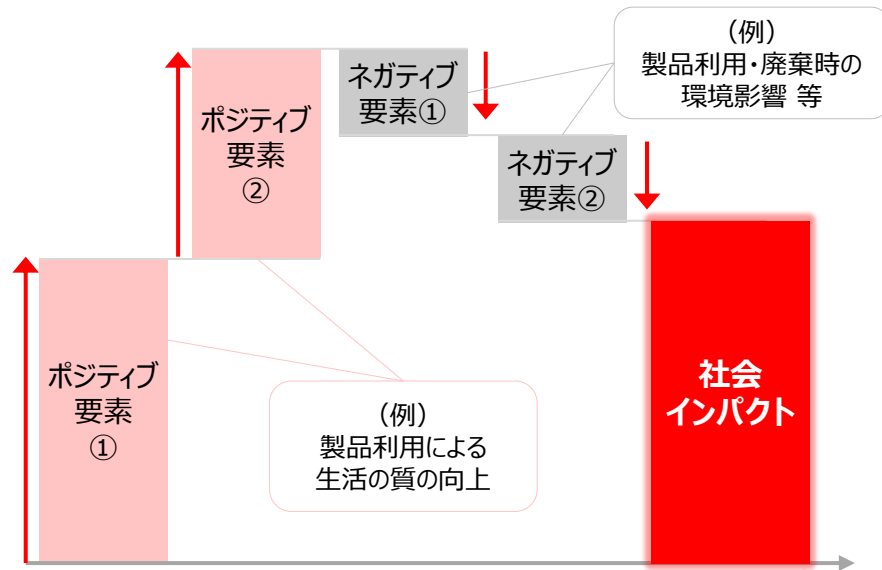
持続可能なパーム油調達に関する算定

持続可能なパーム油（RSPO認証油）使用による自然保護や排出ガス管理（CO₂排出削減）、労働環境（賃金是正）等について、マクロデータ等を用いてロジックを構築/金銭価値換算。

考え方

製品の取得、利用、廃棄において創出すると考えられる
ポジティブ/ネガティブ両面でのインパクトを金銭価値換算、
これらを積み上げてトータルのインパクトを算定

※ 企業毎カスタムの余地が大きい



持続可能なパーム油調達により創出される社会インパクト

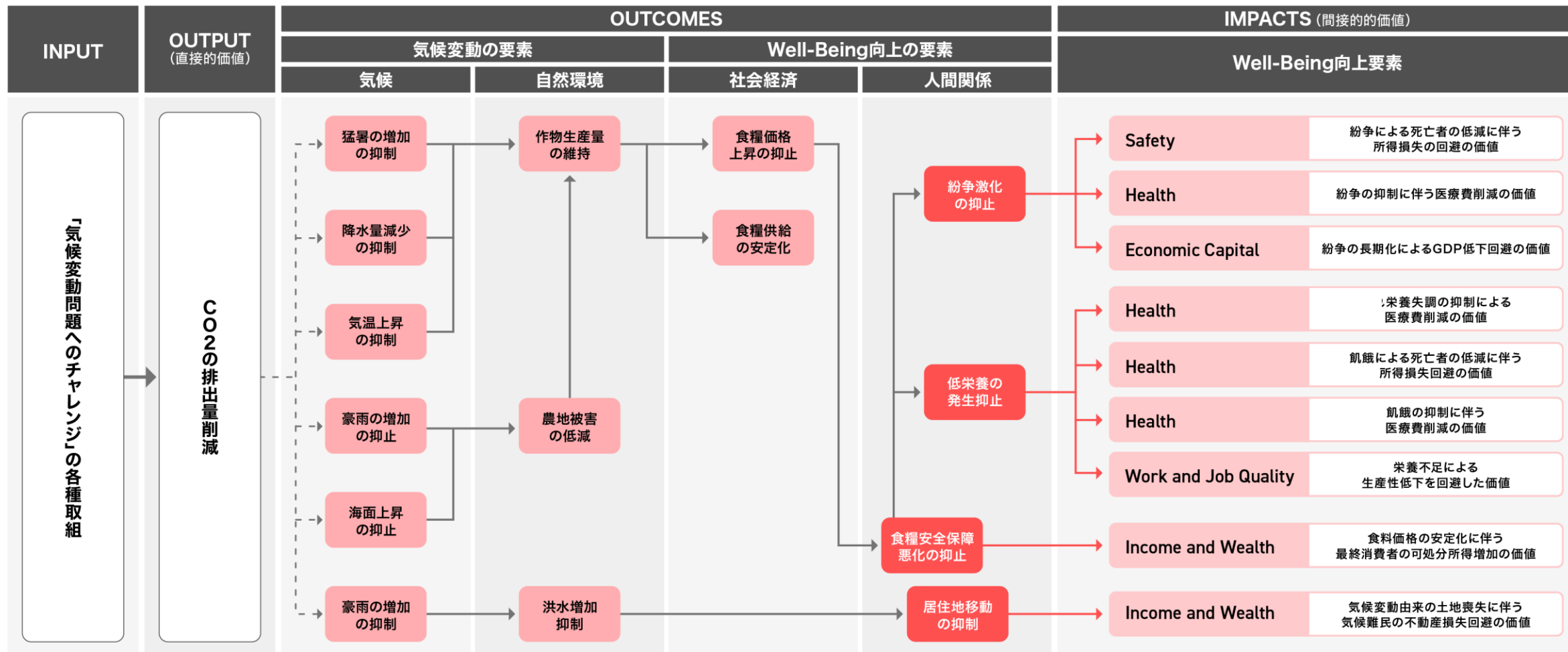
分類	社会価値
自然保護	生態学的/社会的/文化的価値の高い土地の保全に貢献した価値
農薬管理	適正な農薬使用により生態系保全に貢献した価値
排出ガス管理	農園開発審査を通じてCO ₂ 排出回避に貢献した価値
	RSPO認証によってCO ₂ 排出量削減に貢献した価値
労働	賃金の是正に貢献した価値
	長時間労働の是正に貢献した価値
	強制労働の防止・労働条件の是正に貢献した価値
ジェンダー	女性の雇用促進に貢献した価値
	女性への平等な研修機会の提供に貢献した価値
	女性に活躍機会を提供した価値
環境影響	パーム油生産時に排出しているCO ₂ /汚染物質の環境影響 (マイナスのインパクト)

Well-beingに影響を与えるまでのストーリー

国立環境研究所が公表するフロー図を基に、
Co2排出が人々のWell-Beingに影響を与えるまでのストーリーを作成。

凡例

→ 国立環境研究所論文における
気候変動被害に関する研究を
基に作成した因果関係



CO₂削減が、人々のWell-being向上につながる

気候が乱れると、野菜や穀物が育ちにくくなり、価格も不安定になります。

その背景にあるのが、CO₂の増加による気候変動。

私たちは、いつもの食卓を守るために、CO₂を減らす取り組みを進めています。

栄養がつくる、健康で安定した暮らし



栄養失調を抑制し
医療費を削減する



飢餓による
所得損失を防ぐ



飢餓を抑制し
医療費を削減する



栄養不足による
生産性低下を防止する

